



みどり

ケツ！誰も本名で呼んでくれやしない。

みどりみどり

或る日突然、緑以外の色がてんで見えなくなってしまうた。

医者も原因は分からぬと云う。代わりに近所の神社を勧められたが、私は断った。無駄なことはいない主義なのである。

以前と変わらず鮮やかに視えるのは、元から緑色をしていたものだけと成った。空も、足元の土も、芳しく薫る花でさえも。この瞳になつてからは、総て仄かに緑掛ったグレイに視える。だがそれも、慣れて仕舞えばそうそう不都合は無い。結局、戸惑ったのは最初の五日程だけであつた。

一番変わったのは村人たちの態度であらう。旧い因習に囚われたこの村では、異端者は即ち鬼である。皆、遠巻きに邪険にしているのが知れる。

それでも村を追い出されないのは、偏に私の家がかいたためである。

私の家は此の辺の土地の殆どを所有している。親父は随分前から病に臥せて居る。たった一人いる弟は、一年前に出ていったきり連絡のひとつも寄越さない。私は実質唯一の主なのである。私に臍を曲げられるのは、村人たちにとつても、ちよいと困るのだ。

態度が少しも変わらなかつたのは、村の外れに住む、^{ほうすけ}芳助と云う男だけであつた。芳助は頭の悪いわけではないが、何時もどこかボンヤリとして居る。それで阿呆の呆助と呼ばれて居た。

私は少し、芳助と云う男に興味を持った。

それからとても自然な形で、私たちは友人と成つた。二人とも朝の散歩を好むと知つてからは、何方ともなく待ち合わせ、隣町の桜並木を眺めて帰る。それが日課と成つた。

「欧州の言葉で green eye とは、嫉妬深いことを指すらしい」

或る日は彼はそんなことを云つた。

「君には凡そ、似つかわしくない形容詞だな」

「……そうかな？」

「おや、違ふのかい？ 君は余り、物事には執着しない性質だとばかり思つていたが」

「そんなことは無いさ」

その日は皐月も終わりに近付いた頃であつた。花は疾うに散つており、眺めに来る人は少ない。鮮やかな葉が、夏を今か今かと待ち侘びる様にただ茂つて居た。

視界を覆い尽くす、緑、緑、みどり。

「……今も全ての色が視えている君が、憎くて憎く

て仕方がない」

気が付けばそう云つていた。

芳助は、驚いた様に一度此方を振り向いた。それから、如何にも何か云いたそうに唇を開いたが、結局何も云わぬまま顔を戻してしまつた。釣られる様にして私も視線を上げれば、木の天辺で、何かの鳥がビヒョロ口と鳴くのが見える。

その余韻に乗せる様にして、彼は静かに告白した。

「……僕は緑が視えぬのだ」

一瞬、時が止まつたようだった。其れ位、彼の言葉は私にとって衝撃だった。

暫く呆然と彼を見詰てから、私は内緒話をする様にして尋ねた。

「……何時からだ？」

「さあ。憶えている限りでは、ずっとだ。気が付かなかつたか？」

「全く。だが、しかし……」

思い返してみれば、引つ掛けることはあつた。

「僕は緑以外は全部視えるから。色の付いていないのは、緑と思うことにしているのだ」

「……君は」

屹度何時もボンヤリとして居る振りをするのは、異端を悟らせないためのことなのだ、と。

私は漸く気が付いて、憎らしく思うより寧ろ舌を巻いた。

「……聡い男だな、君は」

「まさか。阿呆の呆助だぞ」

「そんな文句を、疑いもなく信じていた私の方が阿呆だったよ」

「……僕は君の様に、金も家柄も持っていないから」
芳助は緑の——否、彼の瞳から視れば恐らくグレイの木を眺めながら、淡々と言葉を紡ぐ。

「鬼憑きだと知れば、生きてはゆけないのだ」

「そうか」

ざあ、と風が吹いて、木の葉が一枚二枚、私たち二人の眼前を通り過ぎていく。

芳助がまた、口を開いた。吟ずるような調子であつた。

「新緑とやらは本当に生命の輝きに満ちて居るのか。赤く成る前の紅葉はどんな色をしているのか。声の綺麗な鶯は、やはり色も綺麗なのだろうか」

そこまで一息に云つて、彼は私の方を真っ直ぐに向き直つた。

「僕は君が羨ましい——……」

グレイの瞳が、此方を射す様に見つめていた。

あの日一目見た時から

まるでキミのこと盗み撮り

自然と目がキミを追っている

ボクはキミ専属の風見鶏

名前はすでに聞いている

お隣さんの星村みどり

このペンダントを渡したいな

模っているのは夢見鳥

きつとキミに似合うと思う

毎日キミの笑顔を拝み取り

キミはとても美しいから

恋人選びはより取り見取り

それでもいつかボクが

キミのハートをつかみ取り

見えてきた あの色が 恋しくて

聞こえてくる あメロディに 誘われて

居心地のよい あ空間を 求めて

友達みんな そこにいる

みんな笑って 手を触れる

その中を駆け巡り 会いに行くよ

僕は走る のどの渇きを 潤すために

疲れた身体を 心を 癒すために

僕が 人間が 必要とするものは

すべて そろっているのだ

行こう 緑色のカードを右手に

「あなたとコンビに」

僕の出身地は地方の田舎で、

家の近くには山がある、緑豊かな場所だ。

僕はそこに、2歳の頃から住んでいた。

近所には、同じ年の女の子がいて保育園も同じだった。彼女は、少林寺拳法を習っていたので、小さい頃はよく蹴られた。

僕が泣き出した時に言う捨て台詞は、

「男の子のくせに、弱いいの」

こんな感じが日常で、漫画のような幼馴染では、決してない。

年に1回、近くの山でお祭りがあつた。

地区ごとに参加して、山頂に石を置いてくるといふ、お祭りだ。それが終わると、参加した子供にはアイスが配られた。その時だけは仲良くチューペットを半分に割って食べながら、山頂から町を眺めた。

まあ、そんなのは、小学生までだ。中学生になつてからは、あまり話さなくなつた。

話したところで、すぐに口喧嘩になる。周りからは、夫婦喧嘩と言われ、そんなの火に油で、さらに激しくなる。

なんだかんだで、中学を卒業し高校は別になつた。

高校生になつて、夏のある日の夕方、地元駅の緑のチェックのスカートを買った、制服姿の見覚えがある女の子が立っていた。・・・彼女だ。家が近いくせに、全く会つてなかつたので、お互いにビックリした。帰る方向は同じなので、一緒に帰つたが、話すことも特にないので、沈黙が続いた。

「高校、どこに行つたんだっけ？」

最初に口を開いたのは、彼女だった。

「I高だよ、お前は？」

「どーせ私は、N高ですよ。あゝあ、どうしたら、そんなに頭良くなれるの？」

「集中力が足りないんだろ、どーせ」

「うつ、確かに漫画に手が伸びちゃうけど……じゃあ、どうすれば集中力がつく？」

「小さい目標を少しずつ消化していくことかな」

「ふーん」

また、沈黙

帰り道の途中のコンビニが見えてきた。

「少し待ってろ」

そう言い捨てて、僕はコンビニに入つた。

僕がコンビニから出てくると、彼女は車止めの上に座つていた。

僕は後ろから近づき、彼女の頬に買つてきたアイスを当てた。

彼女の体がビックツとなり、バツの悪そうな顔で振り向き、僕の手からアイスを奪つた。アイスを食べながら、また帰路につく。

「こうやつて一緒にアイス食うのは、小学生以来か？」

「そうだね。あの頃は私に泣かされていたのね」

「うるせつ」

「お前もやつと丸くなつたな」

「そりゃあ、もうあの頃と違つて女の子だしね」

彼女の家の前に着き、お互いに別れを告げると、彼女が引きとめた。

「これ、さっきのお返し！」ドンツ

すねを蹴られた。

「つゝ、丸くなつたんじゃないのかよ」

「それと、これとは別の話」

そうして、僕も家に帰つた。

今思えば、これが高校生になつて最初で最後の会話だった。

「幼馴染はいいものとは、限らない」

青信号、青菜、青汁

緑なのに青と名乗っている。

俺はこういう矛盾が嫌いだね。

これなら名前を変えるか、

実際の色を青にするかしないか

俺は納得がいかないね。

え？ 青虫はどうかって？

確かに「緑虫」とかにすると

ミドリムシと紛らわしいから

青虫の色を本当に青に・・・

・・・ごめん。前言撤回。

このお店へやって来たとき

僕はあのこに恋をした

赤い服きた綺麗なあのこ

深緑の髪留めが似合ってるあのこ

何日かして僕らは組に分けられた

僕とあのこは別の組

あのこは白い羽織りを着て

他のやつと出て行った

どうして僕じゃ駄目なんだろう

芝生みたいな淡いみどりの僕よりも

夜の森みたいな深いみどりの

あいつの方が好きだったのかな

悲しくて流した涙は雨と混ざって

雨は少ししよっぱくなった

運命を呪う僕の感情が

雨と共に僕をぐつぐつと煮やした

もし僕に次があるのなら

今度はあのこと一緒にいいな

「お待ちせしました！ こちらトマトとブロッコリーのヨーグルトドレッシングサラダ、

そしてキャベツロールコンソメ仕立てです。ご注文は以上でよろしいでしょうか？」

「みどり野菜のはつこい」

僕は都会育ち　みどりを知らない

草原が見たくてたまらない

おやじに話した

「都会はもううんざりだ

おれはみどりがみたいんだ！」

そしたら　じゃあ目をとじてついてこい　と言われた

・
・

目を開けた　一面のみどり　思わずとびこんだ

ドボン！　なっなんだ！？　おやじは爆笑していた

そこは廃校舎の放置されたプールだった・・・

『虚偽の青、真実の緑』

私達は常識に囚われて生きている

常識は盲信を誘い、視野を狭めてしまう

私達から真実を隠してしまうのだ

故に、私は今ここで警鐘を鳴らそう

たとえば、私の行いは小さな楔にすぎないのだとしても

常識という覆いに亀裂を生むのならば

誰しもが一度は疑問に思いながらも

常識に塗り潰されてしまった真実を

今こそ、声高らかに叫ぼうではないか！

青信号ってどう見ても緑じゃね？

みどり、ミドリ、緑、碧・・・

(うーん、正直ネタが思いつかないー)

あっ——

そういえば、俺の初恋の相手の
名前って・・・

「翠(みどり)」

「血の不協和」

昔から、僕に向けられる目は同じだった。恐怖、嫌悪、憎悪。

それは髪の毛にくると癖があるから？口からのぞく犬歯が醜いから？普通の人より頭一つ背が高いから？すこし手が骨ばっているから？

それとも、この身に流れる血が緑色だから？

初めからわかってのことだった。僕は外れ者だから。

それでも僕は彼女と出会ってしまった、彼女は僕を見止めてくれた。

燃える気持ちは彼女の手を引き、彼女の眼差しは僕の足を駆り立てた。

連日連夜に及ぶ逃避行。

束縛的な世界は彼女を取り戻そうと追跡の足を緩めず、排他的な世界は僕を弾き出そうとその手を伸ばす。

地獄の猟犬は僕の指から滴る緑の足跡を嚙り、彼女の足からこぼれる赤いパンの耳は鳥籠へと真っ直ぐに続いていた。

疲弊が判断を鈍らせ、焦りは逃げ場の無い袋小路へと僕の足を誘う。

諦めと絶望は僕の手の中で銀色に鈍く輝き、いとも容易く彼女の喉を切り裂き、僕の胸を貫いた。

彼女の首から噴き出す涙が僕の瞳を赤く濡らし、僕の胸から滴る心が彼女の指を緑に穢した。

緑と赤の命の灯火は、混じり合うことなく流れ出し悲しみの池を作る。

首に回された彼女の腕は次第に力を失っていき、口から漏れる幽かな言葉は風となり消えた。

既に温もりを失い、力なく僕に倒れこむ彼女に、僕は残された力を振り絞って別れを告げた。

―やがて二人の体から流れる二筋の河流は、空気に触れ、石畳を黒く染め上げていた。

えっ、招前まだ寄生なんかしてんの？

俺なんて光合成だぜ？

葉緑体

欲し。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
A01	信号（ケッ！）	12 pt いきなりの「ケッ！」が大インパクト。 今回いっぱい出現した緑信号くんの嘆き、トップバッターとして狙い通りに表紙を飾り、かつブロンズ・メダルゲットです、おめでとう!! イチオシフレーズ：「ケッ！誰も本名で呼んでくれやしない。」	3 位	0 sp
A02	みどりみどり	10 pt 芳助さんの存在感ずしり。後半の会話シーンで、くつきりドラマのシーンが見えてきます。心象風景の描写も手馴れてますね。 芳助さん、名前の通りに色は見えなくても嗅覚バツグンとか、そんな裏設定まで想像してしまいました。 長文だったけど、しっかり読んでもらえて、最多特別賞です、おめでとう！ 特別賞：文学賞（頑張ってたから）がんばったで賞（長い。よく書いたね）長い割にいいで賞（小説ばい。センター試験に出そう）センター試験で賞（「聡い男だな、君は」から読みとれる主人公の心情を次から選びなさい。）文学で賞（東工大生とは思えない文才！）	4 位	5 sp
A03	グリーンプスラブ	21 pt 恋する思いは一直線♪ たくさん「みどり」を集めて、きれいに韻を踏んだリズム感が、はずむ気分をたくみに伝えてくれます。 タイトルも洒落てますね。 逆引き広辞苑でがんばった甲斐あって、みごとゴールド・メダルです、おめでとう!!! 特別賞：ゴリ押し賞（無理して「みどり」をぶっ込んでいる） イチオシフレーズ：「Glimpse Love」「グリーンプスラブ」	1 位	1 sp
A04	あなたとコンビに	13 pt CMのシーンのような、と追っていったら、やっぱりCMっぽい決めセリフでしたね。 そうか、コンビニって「人間が必要とするものはすべてそろっている」のか。よく考えると、なんだかコワイような。 かるやかにシルバー・メダルゲット、おめでとう!! イチオシフレーズ：「あなたとコンビに」×2	2 位	0 sp
A05	幼馴染みはいいものとは、限らない	5 pt 蹴られて嬉しい幼馴染み。ふたりの距離感が楽しげに伝わってきます。アイスを頬に、なんて、もう幼馴染み超えてるじゃん。 次の再会は大学生、という続編があると見た！	7 位	0 sp

		そして衝撃の事実。この話はノンフィクションです!!
A06	創造してみて分かること	2 pt 10 位 1 sp
		ラストの「創造」が効いてます。なるほど創造主さんのお言葉でしたか。 反論にうっと詰まって、潔く撤回してしまう神様、その正直ぶりが好ましい。いいキャラクターです。 特別賞：日本文化賞（すごく共感。これが日本文化。青リンゴや青々とした芝生も同じですね）
A07	みどり野菜のはつこい	8 pt 6 位 0 sp
		おいしそうな仕上がりナイス。食材を擬人化したアイディアが、お鍋ぐつぐつに至るまで、ていねいな比喻で生きています。 こんどこそ、キャベツとトマトのレシピになれるといいね！ イチオシフレーズ：「キャベツロール」
A08	無題（おやじ）	1 pt 11 位 0 sp
		ナイスおやじ！そうなんです。子どもの教育は、こんなふうに体でしっかり憶えさせないと。 そうですみなさま、母の日だけでなく、父の日もお忘れなく！
A09	虚偽の青、真実の緑	0 pt 12 位 1 sp
		オチはすぐに察しが付くけれども、持って行き方の、言葉遣いのものものしさ、仰々しさがユーモラスで笑えます。いいセンスだなあ。 信号ネタ花盛りでなければ、もっと上行けたでしょう。次はユニークさ狙ってみて！ 特別賞：船津君がめっちゃおしてたで賞
A10	翠	3 pt 9 位 0 sp
		初恋ですかそうですか。せっかく思い出したんなら、たいせつな思い出、ちょっとだけでも語ってくれると、みんなももっとしあわせになれたのに。 でも実話だったら、これ以上はムリかな。なっとく。 イチオシフレーズ：「あっ——」
A11	血の不協和	5 pt 7 位 5 sp
		なまなましい色彩をぶちまけつつ、研ぎ澄まされた描写でバッドエンドへまっしぐら。 子細はよくわからないけれど、なぜか焼き付けられるシュールな光景です。中二感（→この用法自体はコード違反です、ねんのため）がヒットして最多特別賞タイです。おめでとう！ 特別賞：It's賞time（中二感まる出しだから。）意味不明で賞（わかりません。解説お願いします。）厨二で賞（よく分からないけどグッとくる）ハレレベル賞（我々の頭では少し難解。）芥川賞（レベルが高いから。） イチオシフレーズ：「地獄の猟犬」
A12	無題（葉緑体欲しい。）	10 pt 4 位 2 sp
		一人前になりたいよお、という植物くんの身もだえがありありと見えるようなインパクト大の今週の裏表紙でした。渾身のフレーズがヒットして、圧勝のイチオシフレーズ大賞です、おめでとう!!

特別賞：こみゅ賞（よく分からない）主人公まちがえ
ちゃったで賞
イチオシフレーズ：「葉緑体欲しい。」×7

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	森から緑が消える頃のこと	7 pt 引き止めても、もう遅い。そんな森の断末魔。 遠い未来か、はたまた。 これだけの言葉数なのに、壮大な思いとコミカルなノリ をあざやかに両立させた今週の表紙でした。 勢いの良さでイチオシフレーズ大賞をさらいました。お めでとう!! 特別賞：柏山賞（読みやすい） イチオシフレーズ：「みどりっ!!!」×5	7 位	1 sp
B02	滅びの象徴としての緑	8 pt 生命力の象徴としてでなく、滅びの象徴として緑をとら えた着眼がユニークで、それをきっちり論説として組み 立てて説得的です。 「記憶」「思い出」といったキーワードで人間の営みを つかまえたところに、とても共感しました。 みんなもっと論説文書こう！ 特別賞：女性で賞（男の勘） イチオシフレーズ：「滅びには緑が付き纏う」「滅びの 象徴としての緑」	6 位	1 sp
B03	国連総会 議事録より	14 pt 国旗に着眼というユニークさとともに、いろんなウンチ クがぼんぼん放り込まれていて、あれ、この国どこだっ け？と調べたくなる吸引力を備えています。 ブルキナファソ、調べてみようそうしよう。 みんなの知識欲を刺激しての最多特別賞とともに、シル バー・メダルゲットです、おめでとう!!! 特別賞：みんなググったで賞（本当に緑だったから）参 考画像が欲しいで賞おもしろかったで賞。が多いで賞 グリーンランドは国ではないで賞 イチオシフレーズ：「ブルキナファソ」×3	2 位	5 sp
B04	無題（間引き）	17 pt え、えー？せっかく生まれ変わってまで会いに来たの にい、というラストの「間引き」エンドが、びっくり楽 しい転生ストーリーでした。 だいじょうぶ、次がある！こんどは何になりましよう か。 しつとりと展開して、すかーんとオチ。阿吽の呼吸もあ ざやかにゴールド・メダルゲットです。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「可哀想だけど、この辺こみあって るから間引きしなきゃ」	1 位	0 sp
B05	緑の叫び	3 pt どうしてどうしてどうしてっ？青ばかりにのさばられ る緑くんのくやしさを炸裂。 擬人化したことで、激おこぷんぷん丸（→注：単体で用 いるとコード違反）な緑くんが、かわいく見えてきま す。ほほえましい演出でした。 特別賞：緑青（緑に同情したから）みどりで賞（フレー ズ・着眼の良さ）緑青（緑と青） イチオシフレーズ：「どどどどどど青」「青なんてキ	9 位	3 sp

		ライさっ」
		2 pt 10 位 2 sp
B06	いっつあすもー るわーど	哀愁漂うカマキリ氏に貰い泣きが止まりません。 説明っぽくならず、さらりとセリフでタネアカシ。う まくできてるなあ、と感嘆するばかりです。 でも、ちょっと分かりにくかったというのがフロアの反 応でした。残念。 特別賞：女はこわいで賞（桑田さん、いいよね！）意味 不賞（皆さんには気付きづらいのかも。オレたちもわ かってません。）
B07	学問なんて嘘ば かり	6 pt 8 位 0 sp わはははは。たしかに、言えてる。 まやかしの心理効果を、すかーんとかっ飛ばして、爽快 感はじけます。
B08	信号機	11 pt 4 位 0 sp ゆったりと語りかけているうちに、だんだん苛立ってき て、ついに「通してくれ！」と爆発。 クレッシェンドの盛り上げかたが秀逸でした。 イチオシフレーズ：「君には全然似合わない」× 2
B09	葉緑体の一生	10 pt 5 位 0 sp ブラックと自虐しつつも、自分がいなけりゃ会社は潰れ ると、しっかり会社を背負っているプライドが吐露され ていて、黙々と仕事に邁進する姿がすがすがしい。 そんな「社員」さんたちに生命は支えられているのだす ね。ナイス擬人化でした。
B10	多分、あると思 うけどな	0 pt 11 位 0 sp さらりと一句。 宇宙の広がり、水の惑星の美しさ、映像的に封じ込めて 印象深い仕上がりです。
B11	都市問題	12 pt 3 位 1 sp 子どもなりの、いっしょうけんめいで、かわいいソ リューション。 都市問題で始まって都市問題で終わる構成もうまく決 まって、愉快な一幕でした。おめでとうブロンズ・メダ ル! 特別賞：異常気賞（環境が破壊されたから。）
B12	森林公園	0 pt 11 位 0 sp みどりと聞いて浮かんできた思い出のカタチ。 風薫る、このいい季節に出かけてみたいなとアウトドア 気分を誘われる今週の裏表紙でした。